



ドイツ

オンラインのフィットネスクラブには限界も

● 商品テスト財団「テスト」2020年9月号

<https://www.test.de/Online-Fitnessstudios-im-Test-Nur-zwei-sind-eine-gute-Alternative-zum-klassischen-Studio-5391568-0/>

新型コロナウイルスの影響で、オンラインによるフィットネスクラブが次々と登場している。他人と接触せずに、自宅で気軽に運動できることから消費者の関心も高い。そこで、商品テスト財団は有料の5クラブを対象に、比較テストを行った。

その際、最も重視したのは運動の質である。大学教授など4名のスポーツ科学者が一般客に紛れて対象クラブに登録し、①筋力 ②持久力 ③リラクゼーションの観点からトレーニング内容を精査した。補足的に、さまざまな年齢、性別、レベルの消費者9名にも体験してもらい、主観的評価を依頼したが、得点には反映させていない。そのほか、プログラム構成や栄養面の助言など、個人に合わせたサービスが提供されるかどうかを検証した。栄養面の評価は2名の栄養学者が行った。

その結果、2つのクラブが総合的に高評価となり、対面式フィットネスクラブの代わりになり得るとされた。注目すべきは、最もよいと評価されたクラブが、専門家と消費者で一致したことである。ただし、高評価のクラブを含め、健康状態や病歴を尋ねることはなく、個人の健康への配慮が欠けていると指摘された。また、栄養面の助言がなかったり、やる気を引き出す工夫がないクラブもあったという。

さらに今回、無料動画配信サイトの中から、フォロワーの多いドイツ語のフィットネスチャンネルを3つ取り上げ、前述の試験者(栄養学者を除く)が体験してみた。大衆に向けた無料配信という性質上、個人のニーズに配慮した構成にはなっておらず、栄養補助食品の宣伝が多いと指摘されたが、2つのチャンネルは試す価値ありという評価になった。



オーストリア、ドイツ

栄養バランスが悪いキャットフードも

● VKI「消費者」2020年7月号

<https://www.konsument.at/cs/Satellite?pagename=Konsument/MagazinArtikel/Detail&cid=318920563890>

● 商品テスト財団「テスト」2020年5月号 <https://www.test.de/Katzenfutter-Feuchtfutter-Test-4672532-0/>

2018年の調査によると、オーストリアの家庭の約4分の1で猫を飼っており、その数は犬の約2.5倍に上るといふ。このようななか、キャットフードの選択に迷う消費者も多い。そこで、VKI(オーストリア消費者情報協会)は、ウェットタイプの19商品を対象にテストを行うこととした。ドイツ商品テスト財団との「共同テスト」の形式を取った。

最近「ベジタリアン」「ビーガン」と表示されるキャットフードも販売されているが、同協会は肉食の猫にはふさわしくないという立場を取る。そこで、鶏肉、七面鳥肉、豚肉などのミックス品を中心に、マグロ、サケなど魚の割合が高い商品も対象に加えた。テスト項目として最も重視したのは、猫に必要なたんぱく質、ビタミン類、ミネラルなどが適正な量と割合で含まれているかという点である。体重4kgの

成猫(やや太め)を基準とした。

その結果、8商品に高得点がついたが、その中には、1日当たり0.29ユーロと最も安価な商品も含まれていた。一方、落第点がついたのは5商品で、リン、ナトリウムまたはカルシウムの過剰配合が主な理由である。強い骨を形成するにはリンとカルシウムが必須だが、リンを過剰に摂取し続けると腎臓疾患を招くと同協会は指摘する。また、猫に必要なヨードなど微量元素が不足する商品もあったという。

なお、商品テスト財団「テスト」では、キャットフードの包装容器がもたらす環境負荷にも言及している。1食ごとに小分けされた商品を使うと、どうしても廃棄物が多量に出る。そこで、大容量のスチール缶入り商品やドライフードも取り入れることで、廃棄物が削減できると助言する。



香港

ウェアラブル空気清浄機の実力は？

● HKCCホームページ https://www.consumer.org.hk/ws_en/news/press/527/wearable-air-purifier.html

新型コロナウイルス流行のなか、香港では首にかけるタイプのウェアラブル空気清浄機が人気だ。マイナスイオンで除菌やPM2.5除去等ができるという。HKCC(香港消費者委員会)ではその効果を確認するテストを行った。対象は中国、韓国、日本、台湾のメーカーの10銘柄(598~1,698香港ドル、約8,000~23,000円)。機器にフィルターはなく、発生させたマイナスイオンで汚染物質粒子が帯電し、他の汚染物質と付着して沈降または物体表面に付着することで周囲の空気を浄化するという。マイナスイオン密度の計測結果は、2,000~660,000個/cm³と各銘柄間で330倍の差異があった。

除菌能力は、1.5m³の実験空間に黄色ブドウ球菌を散布し、各銘柄を15分間作動後に計測。結果は70%前後という低い除菌率で、延長して1時間作動

した後の最良銘柄でも80%にとどまった。PM2.5の除去能力は、3m³の実験空間で30分間作動後に計測。これも2.0~53.1%と低い除去率で、10銘柄中6銘柄は5%以下。上位2銘柄がようやく2時間後に90%除去した。

密閉された狭い実験空間で継続的な汚染源がない環境に比べ、オープンな日常生活の環境にはより多くの変動要素があることから、これらの能力はさらに弱まることに消費者は留意すべきとHKCCは言う。また、再び舞い上がる、付着面に触れるなどの二次汚染の可能性もあると指摘する。

HKCCは、ウェアラブル空気清浄機はパンデミック対策にはなり得ないと強調し、適切にマスクを着用し、手洗いなどで常に衛生状態を保ち、人と適切な距離を保つことが最も重要、としている。



アメリカ

危険な農薬から身を守るためには？

● CRホームページ
<https://www.consumerreports.org/pesticides-in-food/stop-eating-pesticides/>
<https://action.consumerreports.org/pesticides20200827petition?INTKEY=IA208CP>

EPA(環境保護庁)のデータでは、アメリカで毎年約45万トンの殺虫剤が使われ、そのほとんどは農薬であるという。このほど、CR(コンシューマレポート)がUSDA(農務省)の5年間(2014~2018年)の農薬データを検証したところ、果物や野菜から約450種の残留農薬が検出され、CRが有害と考えるものも含まれていた。安全な食生活のための防衛策は、農薬が少ない・安全な農薬を使用している果物・野菜を賢く選択することだとCRは言う。

まず考えるのはオーガニック製品の選択である。USDAなどのオーガニック基準はある種の農薬を許可するが、転作などさまざまな非化学農法が奏功しなかった場合に限り安全な農薬のみ使用が許可されるので安心できる。しかし、オーガニック製品は通常製品より高額で、すべての消費者向けではない。

今回のCRの調査では35種49品目の果物・野菜をオーガニック/非オーガニック、国産品/輸入品に分けて、それらの残留農薬各種の検出量をEPAの慢性毒性参照量に照らした。さらに神経毒や内分泌攪乱物質かくらんが懸念される農薬については、EPAでは実施していないFQPA(食品品質保護法)の求める安全係数1000で除した数値も算出し、その集計結果を5段階に色分けして図解した。低評価の18品目は、オーガニック製品にするか、高評価の品目で代用するなどの工夫を勧めている。

CRでは連邦議会やEPAに対し、特に危険な農薬の禁止、子どもを有毒農薬から守る法案の成立、今のところ有機リン酸塩以外にはほとんど適用されていないFQPA法安全係数の全面適用などを求める請願書への署名を広く求めている。